

(別添様式 1)

平成 29 年度 建設産業魅力発信（担い手確保・育成）取組実績

機関・団体等の名称

広島建設青年交流会

事業等の名称	広島県内建設業界を知ってもらう説明会								
1. 実施時期 ・平成 29 年 6 月 5 日 呉工業高等専門学校 ・平成 29 年 6 月 13 日 県立広島工業高等学校 ・平成 29 年 6 月 16 日 県立西条農業高等学校 ・平成 29 年 6 月 28 日 広島工業大学専門学校									
2. 実施場所 (上記に記載)									
3. 対象者（参加見込又は参加者数） <table><tr><td>・呉工業高等専門学校 環境都市工学科 4 年生</td><td>約 40 名</td></tr><tr><td>・県立広島工業高等学校 土木科 3 年生</td><td>約 40 名</td></tr><tr><td>・県立西条農業高等学校 緑地土木科 1・2 年生</td><td>約 80 名</td></tr><tr><td>・広島工業大学専門学校 土木工学科 1 年生</td><td>約 20 名</td></tr></table>		・呉工業高等専門学校 環境都市工学科 4 年生	約 40 名	・県立広島工業高等学校 土木科 3 年生	約 40 名	・県立西条農業高等学校 緑地土木科 1・2 年生	約 80 名	・広島工業大学専門学校 土木工学科 1 年生	約 20 名
・呉工業高等専門学校 環境都市工学科 4 年生	約 40 名								
・県立広島工業高等学校 土木科 3 年生	約 40 名								
・県立西条農業高等学校 緑地土木科 1・2 年生	約 80 名								
・広島工業大学専門学校 土木工学科 1 年生	約 20 名								
4. 共催・単独等の開催状況 広島県、（一社）広島県測量設計業協会、（一社）広島県建設工業協会、広島建設青年交流会による共催									
5. 事業等の内容 「県内の建設業界への就職希望者の増加を図ること」を目的として、県内の土木系学科を有する高校、専門学校、高専において、建設業の地域貢献、やりがい等について講義を行いました。2 部構成で、第 1 部は、広島県土木建築局建設産業課、広島県測量設計業協会、広島建設青年交流会が、それぞれ行政、コンサルタント、建設業者の立場から、社会資本整備の状況や業界の魅力について、スライドを用いて説明を行いました。 また、本事業のために撮影した PR 動画を視聴してもらいました。第 2 部は、それぞれの学校の卒業生や若手技術者による意見交換会を実施しました。									
6. 期待される効果（実施結果：効果） 土木に関わるそれぞれの立場から社会的役割や仕事のやりがいなどを直接伝えることで、土木の仕事を知ってもらうことができました。卒業生や若手技術者にも参加してもらうことで、より身近に感じてもらうことができました。									

本事業を始めて 3 年になりますが、この学校訪問を通じて就職先を決めた学生もあり、入職支援に効果があると考えられます。

また、この度は 2 校においてテレビ取材もあり、メディアを通じて土木業界への入職促進活動を行っていることも社会全般に広く知ってもらうことができました。

7. 運営上の課題と課題解決に向けての検討・提案

専門を専攻している学生については既に土木に関心があるため、これまでの学校は継続した上で、普通科や専門外の学校にも広げていく必要があります。

また、学生のみではなく、就職の際に影響力がある親への PR もしていく必要があります。

広島県など行政機関と連携して、県立大学に土木科を創設したり、また、地元建設業界に就職すれば授業料免除にするなど、政策的に土木業界への入職支援をできれば、より大きな効果が得られると考えられます。

8. その他

注 1：提出資料は電子データとしてください。

注 2：パンフレット等製本資料がある場合は、必要部数を参加者集計の後お知らせしますので、各機関で部数を揃え、期限までに事務局へ提出してください。

呉高専で担い手確保説明会

「誇り」と「やりがい」強調

建設関係者
の交流
会
で
行
な
れ
た

県内建設業の担い手確保に向け、広島県と広島建設青年交流会（伏見光昭会長）、広島県建築設計業協会（荒谷壽一会長）らが連携して実施している学生向け説明会が5日、呉工業高専で開かれ、建設関係者との交流を通じて、

「誇り」と「やりがい」にあふれる建設業の魅力を伝えた。説明会は、人材確保に悩む地元建設業の状況を改善しようと平成27年度から始まったもので、この日は建設活動開始を機に、



建設業の魅力を伝える野中氏

「マにインフラ整備や地域の安全・安心の担い手としての建設業の仕事について解説したほか、広島建設青年交流会の野中直樹幹事（建築業）は、「建設業って？」と題し、地元建設業の責任や現場監督の1日の仕事内容、多岐にわたる業務を疑問を解消。「皆さんが、街を守る誇りとやりがいのある仕事。一緒に仕事ができる日を羨しみにしている」と呼びかけた。また、広島県建築設計業協会の杉崎晃彦副会長（ラッキョウエンジニアリング）は、安全な暮らしを陰で支える建設コシカ

の役割と求められる素養について触れ、建設関係者への入職を求めた。

このほか、各団体で実施に動く若手技術者との意見交換も催され、学生側からの質問に対して回答。「高専卒は即戦力といわれるが、何も知らない」と不安がる学生らに「即戦力とは考えていない。数年は先輩について勉強してもらうので安心して来てほしい」としたほか、「なぜ今の仕事に就いたか」の疑問には、「地元で働きたかった」「道路をつくりたかった」「実は深く考えていなかった」などそれぞれの立場から答えた。今年度の説明会は、建設関係者がある高校・大学などを対象に7・18校で開いていく予定。県土木建築関連建設業者の西原久人主幹は、「アシケートでの意見も大いに参考になる。すぐに結果に結びつくとは思っていないが、今後も地道な取り組みとして継続していく」と話していた。

と団体
県建設業
広島県建設業

県工で担い手確保説明会

建設業の魅力、役割アピール

広島県建設業団体などが、建設業の担い手不足を改善するために開いている学生向け説明会が13日、県立広島工業高等学校であり、土木科3年生の生徒約40人に「街



建設業の魅力を語る高橋氏

をつくり、守る」建設業の役割や魅力をアピールした。今月5日には呉商工会、16日には広島県建設業協会、18日には広島県建設業協会、28日には広島工業大

学専門学校でも開く。説明会の前半では、「建設業の魅力」をテーマに各団体の講師が登場。広島県の担当者は「建設産業の役割と課題」を題してインフラ整備や地域の安全、安心などに対する建設産業の関わりを説いたほか、広島県測量設計業協会の森脇克彦副会長は「クォンティティ・オブ・ワーク」をテーマに、社会基盤整備に不可欠な建設コンサルタントの仕事内容を説明した。続いて広島建設青年交流会の高橋章文監事（宮

川興業）は、学生らが担当することになる現場監督の仕事内容を紹介し、新3Kをはじめとする働き方改革を進めていることも強調。終りとやりがいのある仕事、一緒に仕事をできる日が楽しみだと呼びかけた。

また、第2部の意見交換では、県工OBで現在県内建設業に勤務する若手技術者が精進し「高校時代にやっておくべきこと」とは「休みの日は何をしたいか」「仕事の中で楽しかったこと」となど学生からの素朴な質問に回答。面接のコツなどもアドバイスし「残りの学生生活を無駄にしないように」とエールを送った。県土木建築局建設産業課の西原久人主幹は説明会終了後「建設業は地域を担う大事な産業。説明会を通じて一人でも多くの学生が入ってほしい」と話していた。

広島県と
青年交流会ら

主張したのは、広島県のはが広島建設青年交流会（伏見光政会長）、広島県「戦犯」と「やりがい」を伝えた。

と睨みかけた。

このほか、後半では学生を3グループに分け、隔年建設業で働く同校OBとの意見交換も催された。少人数の方が聞きやすい」とこの配座から企画

しいことは「船舶は満足か」休むはとれるか「出
会いはあるか」などの質
問に對して、會員企業な
どから出席した若手職員
が丁寧に回答した。

今年度実施予定の説明
会のうち、上半期に予定し
ていた4校は、すでに終了。
興誠建設業会によれば、
下半期は広島工業大学
(約10名)、県立総合技術
高校(約10名)、興立南中
(興南校)(約40名)でも実施
予定で、これ以外の高校
についても検討する。ま
た、若手等の積極的参
加としてセミナー等も開
ていきたいとしている。

(別添様式 1)

平成 29 年度 建設産業魅力発信 (担い手確保・育成) 取組実績

機関・団体等の名称

広島建設青年交流会

事業等の名称	子どもたちに絵本を贈る事業
1. 実施時期	- 平成 29 年 9 月中旬～10 月中旬 福山市、三次市、庄原市の小学校 - 平成 29 年 10 月 27 日、30 日 三入幼稚園、ぎおんナーモ保育園
2. 実施場所	- 福山市内の小学校全校 77 校 - 三次市内の小学校全校 22 校 - 庄原市内の小学校全校 19 校 - 合 計 118 校 - 三入幼稚園・ぎおんナーモ保育園 5 校
3. 対象者 (参加見込又は参加者数)	- 福山市内の小学校全児童 約 25,220 人 - 三次市内の小学校全児童 約 2,695 人 - 庄原市内の小学校全児童 約 1,623 人 - 三入幼稚園・ぎおんナーモ保育園他の園児 約 259 人
4. 共催・単独等の開催状況	(一社) 広島建設工業協会、(公財) 建設業福祉共済団、西日本建設業保証(株)、広島建設青年交流会による共催
5. 事業等の内容	昨年 of 広島市に続き、福山市内、三次市内、庄原市内の小学生の子どもを対象として、小学校に建設業に関する絵本を寄贈し、建設業界をもっと知ってもらい「知識を深めてもらう」、「建設業のイメージアップを図る」等の効果を期待し、将来的になりたい職業として選択してもらい、若手入職者をより多く確保することを目的としております。 各小学校を訪問し、下の 7 冊の絵本を寄贈しました。また今年度は絵本に加え、全児童を対象に建設学習帳 (自由帳) を寄贈しました。 ・土木の歴史絵本シリーズ 5 巻 (瑞雲舎) 「暮らしを守り工事を行ったお坊さんたち」 「川を治め水と戦った武将たち」 「技術と情熱をつたえた外国の人たち」 「土木技術の自立をきずいた指導者たち」

「海外の建設工事に活躍した技術者たち」

- ・しごとば東京スカイツリー（ブロンズ新社）
- ・図解絵本 工事現場（ポプラ社）
- ・建設学習帳（自由帳）

また、三入幼稚園、三入東幼稚園、みいりナーモ保育園、ぎおんナーモ保育園、オハナ保育園の園児には下記の絵本と全園児に建設学習帳を寄贈しました。

- ・どうろこうじのくるま
- ・のろまなローラー
- ・ダンダン こうじ はじまります
- ・みんなで！いえをたてる
- ・みんなで！どうろこうじ
- ・ブルドーザーのガンバ
- ・ざっくん！ショベルカー
- ・建設学習帳（自由帳）

6. 期待される効果（実施結果：効果）

建設に関わる絵本を小学校に寄贈することで、多くの小学生に建設について興味を持ってもらうことができました。

多くの小学校では新規の図書購入が削減されてきている中、絵本の寄贈を大変喜んで頂けました。各校を訪問し、校長、教頭に直接手渡しをすることで、将来を見据えて地道に建設業のすそ野を広げる活動をしていることを知って頂き、教育者の視点から建設業に対する認識を深めて頂くことができました。

7. 運営上の課題と課題解決に向けての検討・提案

この度、福山市内、三次市内、庄原市内の小学校に絵本を配布する際、当会会員が手分けをして、各校を個別訪問しました。

当会会員の多くは広島市内に拠点を構える会社が多いため、配布に際し各会員に手間と時間の負担を掛けました。

今後、配布対象を広島県内の他地域へ広げていくことを考えていますが、会員、並びに、会員企業の負担がより大きくなる懸念があります。

8. その他

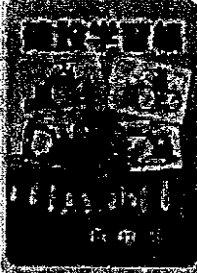
注1：提出資料は電子データとしてください。

注2：パンフレット等製本資料がある場合は、必要部数を参加者集計の後お知らせしますので、各機関で部数を揃え、期限までに事務局へ提出してください。

贈り物 118校に絵本寄贈 「建設業の魅力」に活用

＝広島建設青年交流会＝

広島建設青年交流会の伏見光雄会長は13日、福山市立神小小学校を訪れ、建設業を題材にした絵本7冊を寄贈した。昨年から始めた絵本贈呈事業の一環。今年も各委員で分担し、福山市（市立19校）に市立小学校1



当日は伏見

18校に計828冊を手渡しで配る。絵本贈呈事業は、建設業の若手リーダーで構成する青年交流会が主として、建設業の魅力を伝える、将来の入職者増強にもつなげようと広島県建設工業協会、建設業福祉共済会、四日本建設業保証の3団体の支援を受けて始めたもので、昨年は広島市内の市立小学校全141校に合計987冊を贈呈した。

東京スカイツリーの工事現場を紹介する絵本や、歴史や偉人と土木技術の関わりを描いたものなど昨年同様7冊7冊に加え、今回からは全国建設業協会が作成したミニパンフレット「建設学初級（自由編）」も追加。絵本は学級文庫として各クラスを巡回後、図書室の蔵書として活用してもらい、自由編は全生徒分に配布できる約3万冊を確保した。

会長（伏見光雄）のほか、前山拓也副会長（東本）、三島弘毅副会長（三島）、山田賢司専任委員（山田）、白根真幸専任委員（白根）が同校を訪れ、伏見会長が「建設業への新規入職者は将来的にも厳しい見通しとなっており、高校・大学等への説明会を行っているが、さらに10年20年先を思えば、その事業、街をつくり、守る建設業の魅力を

を少しでも伝えたい」と絵本贈呈への思いを説明。同校の坂田登校長は、同校の大型機械や昨年の神小地区大水害等における建設業者の活躍に触れ、「大変お世話になっている。子どもたちも工事現場の出入りを興味深々で見ているし、喜ぶと思う。しっかり活用させてもらい、学びに結びつけたい」と述べた。



伏見会長（右から3番目）、坂田校長（同4番目）ら

十日市、西城小に建設絵本

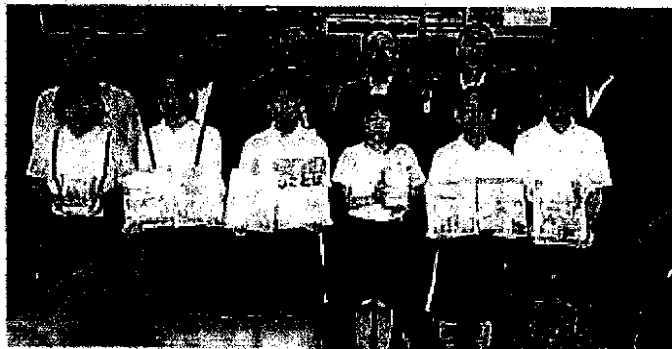
広島建設青年交流会らが寄贈

「街をつくり守る」仕事の魅力伝える

今年で2年目を迎える 原市立西城小学校を訪問
広島建設青年交流会の絵
本贈呈事業で、同会の伏
見光晴会長らは13日、三
次市立十日市小学校と庄
分担し、福山市、三次市、
庄原市の全市立小学校
(118校)に手渡しで
配るといふ。



絵本を手渡す伏見会長(右)と十日市小・坂田校長



西城小の児童と交流会メンバーら

伏見会長(伏光組)、前川
拓也副会長(栗本)、山田
堅司幹事長(増岡組)、さ
らに県北の会員を代表し
て参加した熊高洋一幹事
(熊高組)と永迫正治氏
(加藤組)。
十日市小での贈呈式で
坂田邦彦校長は、「最近
地元で大きな工事が少な
く、労働と子どもの距離
が離れていると感じる。
働くことの意義を教える
キャリア教育の中でしっ
かりと活用させていた
く」と深い感謝の意を表
明。

また、西城小では裾部
要校長のほかに生徒
6名も贈呈式に参加し、
それぞれ感謝の言葉を伝
えたのち、絵本と学習帳
を受け取った。渡部校長
は、「われわれの地元でも
担い手が少なくなってお
り、建設業に入る人が減
れば何かあったときに困
る。将来の仕事として選
ぶきっかけになれば」と
述べた。
絵本の贈呈事業は、新
規入職者不足に悩む建設
業が子どもたちに建設業
の魅力を伝えることで将
来の新規入職者増と業界
のイメージアップにつな
げようと、当時の岡本弘
之前会長(岡本組)らが中
心となって発案し、始ま
ったもの。
広島県建設工業協会、
建設業福祉共済団、西日
本建設業保証も趣旨に
賛同してバックアップ
し、昨年は広島市内の全
141校に計987冊
を配った。来年以降も継
続する予定で、県内の公
立小学校全校への配布を
当面の目標に掲げてい
る。

伏見会長は、「依然とし
て建設業のイメージが良
くない中、実際にどうい
う仕事を知ってもら
う最初のスタートだと思
う。入ってしまえば非常
にやり甲斐のある仕事だ
し、街をつくり、守る仕
事の魅力を伝えられれ
ば」と話していた。

三入幼5園に建設絵本

シヨベルカー体験も

建設会
交流
広青

広島建設青年交流会（伏見光暁会長）が昨年度から実施している子供達への絵本贈呈事業で、伏見会長らは学校法人龍花学園などが運営する三入幼稚園（安佐北区三入）、宮おんナード保育園（安佐南区祇園）を訪れ、

同会では、建設業の魅力を伝えることなどを目的に、昨年は広島市内の金市立小学校141校（合計987冊）、今年は

福山市、三次市、庄原市の118校（826冊）に建設関連絵本を贈っており、今回の事業は、沼田哲志幹事（沼田建設）が学園側の関係者と同級生だった縁で実現したものの。

伏見会長（伏光組）と沼田幹事のほか、前川祐也副会長（栗本）、山田堅司幹事長（増岡組）、高橋章文監事（宮川興業）も参加し、贈呈と合わせて

催されたシヨベルカー体験には西尾レントオールが協力した。

贈呈式では、伏見会長が道路や橋、マンションなどをつくる建設業の役割を幼児にもわかりやすく説明したのち、「どうもこうじのくるま」フルドーザーのガンバ」など、建設業や建設車両に関連した絵本7冊を同園の龍花康丸理事長に贈呈。

交流会メンバーは園児たちから元気いっぱいのお礼の言葉を受け取り、手作りのメダルを首にかけると、思わず顔をほころばせていた。

龍花理事長は、「絵本を寄贈いただくことはなかなかない機会。大切に使用させていただく」と感謝。

伏見会長は「ちよっと早いけど、喜んでもらうことが一番。思い出を忘れずに大きくなってもうえれば」と話していた。



伏見会長(向)と龍花理事長



園児との記念撮影

(別添様式1)

平成29年度 建設産業魅力発信（担い手確保・育成）取組実績

機関・団体等の名称

広島建設青年交流会

事業等の名称	広島工業大学との交流事業
1. 実施時期	・平成29年12月4日
2. 実施場所	・安芸バイパス清谷高架橋下部外工事現場（現場見学会・測量実習） ・広島工業大学（意見交換会）
3. 対象者（参加見込又は参加者数）	・広島工業大学 都市デザイン工学科3年生約70人 ・国道交通省中国地方整備局 約7人 ・広島県 約5人 ・広島建設青年交流会 約32人
4. 共催・単独等の開催状況	・広島県建設工業協会、広島建設青年交流会による共催
5. 事業等の内容	第1部 安芸バイパス清谷高架橋下部外工事現場にて現場見学会を開催しました。現地では、現場見学のほか、グループに分かれた測量実習、ドローンによる集合写真撮影を実施しました。 第2部 国道交通省中国地方整備局、広島県土木建築局による土木行政、社会基盤整備について説明しました。その後、各参加団体から若手技術者、女性技術者も参加し、行政、民間それぞれの立場から仕事内容ややりがいなどについて質疑応答のかたちで、学生の率直な疑問に答えました。昨年までは意見交換を約70人の学生と全体で行っていましたが、本音で話しにくいと言った意見を踏まえ、10人程の小グループに分かれたテーブルで意見交換を行うかたちで実施しました。
6. 期待される効果（実施結果：効果）	見るだけの現場見学会ではなく、測量実習やドローン飛行などを通じ、建設現場をより身近に感じてもらうことができました。 また、行政、会員企業から比較的年齢の近い若手技術者が参加することで、

学生に近い目線で対話をすることができました。

行政、民間建設業者それぞれの立場の意見を聞くことができ、建設産業の魅力をより総合的に伝えることができました。

今年度は、小グループで意見交換を行うことで、より身近な意見交換ができました。

また、若手女性技術者も参加し、女性だけのグループを作り、意見交換を行ったところ、普段聞かれないことを聞くことができたとのコメントが学生からありました。

7. 運営上の課題と課題解決に向けての検討・提案

会員企業が施工する現場にて現場見学会を実施していますが、今後本事業を継続していく上で、適切な立地、工程の施工現場がないことが考えられます。

また、現場見学会を主催する施工業者にとっては、自薦準備や当日の安全確保など工程や作業への影響があるため、発注者から実施業者への配慮（工事評定点等）があればより望ましいと思われます。

8. その他

注1：提出資料は電子データとしてください。

注2：パンフレット等製本資料がある場合は、必要部数を参加者集計の後お知らせしますので、各機関で部数を揃え、期限までに事務局へ提出してください。

青年建設会
広島交流

広工大と恒例の交流イベント

魅力学び「地元企業に入社」

就職活動を進める学生に対し、建設業への理解を深めてもらうために毎年実施されている広島建設青年交流会（伏見光晴会長）らと広島工業大学の交流イベントが4日、

同大キャンパス内などで開かれ、国・県の担当者も含めた建設青年約60人と都市デザイン工学科3年生の約70人が参加。安芸バイパスでの現場体験や意見交換を通じて「まち

をつくり、守る」建設業の魅力を伝えた。イベントは、比較的年代の近い建設青年と学生とが現場見学や昼食、意見交換を通じて交流し、打ち解けることで建設業

への就職に対する不安や疑問を取り除こうと始まったもので、今回で7年目。近年は恒例行事として双方に定着している。交流会のBでもあり、

親会として活動を支援する（一社）広島県建設工業協会の横山典英会長（鴻治組）は挨拶の中で、「地元の建設業は、社会資本整備を通じて地域社会に貢献するだけでなく、災

害対応など地域になくてはならない存在。現在、より魅力ある産業となるべく官民一体で取り組んでいるところだが、新しい技術で未来を築くのが

皆さんだ。希望を胸にぜひ建設業に入社してきてほしい」と熱く呼びかけた。意見交換では、参加者全員を10のグループに分け、グループ内にいる建設青年に学生が気になっ

「話すべき」などと助言した。このほか、広島市安芸区上瀬野で施工中の「安芸バイパス滑谷高架橋」下部工事の現場を訪れ、建設青年の手ほどきを受けながらの測量体験なども実施。中国地方整備局企画部企画課による「中国整備局の所管業務」、広島県土木建築局技術企画課の「広島県の土木建築行政について」の特別講演もそれぞれ披露された。

伏見会長（伏見組）は、「せっかく大学で土木を学んだのだから、役所でもゼネコンでも何らかの形で建設業に入社してほしいと始めたことだが、イベントを通じて近い将来の自分の姿を思い描き、できることなら地元企業に就職してほしい」と話していた。



横山会長



グループ討論の内容を発表する学生



協会ベストを着用しての測量体験

「返す形で進行し、仕事のやりがい」に関するテーマでは、「地図に頼り、やりがいがある仕事」「顧客に喜んでもらえる達成感」などの意見がでたほか、「面接や学生生活で心がけておくこと」では、「コミュニケーション能力を磨いておいた方がいい」「面接では、嘘をつかずに自分の意見を正直に

(別添様式2)

平成30年度 建設産業魅力発信（担い手確保・育成）新たな取組予定

機関・団体等の名称

広島建設青年交流会

事業等の名称（仮称）	・ 広島県内建設業界を知ってもらう説明会 ・ 子どもたちに絵本を贈る事業 ・ 広島工業大学との交流事業
1. 実施時期（予定） 前年同様に実施見込み。 2. 実施場所（予定） 前年同様に実施見込み。 「子どもたちに絵本を贈る事業」については、配布エリアを広島県内の未配布地域にして実施する見込み。詳細は未定。 3. 対象者（参加見込） 詳細未定。 4. 共催・単独等の開催方法（予定） 前年同様に実施見込み。 5. 事業等の内容（予定） 前年同様に実施見込み。 6. その他	

注1：提出資料は電子データとしてください。

注2：パンフレット等製本資料がある場合は、必要部数を参加者集計の後お知らせしますので、各機関で部数を揃え、期限までに事務局へ提出してください。